

自分でできる木造住宅の「耐震診断」

■次の項目に答えてください。

- ①強い風が吹くと、建物が揺れる。
(はい いいえ)
- ②車が通ると、建物が揺れる。
(はい いいえ)
- ③床の傾斜や床鳴りがある。
(はい いいえ)
- ④外壁や基礎に、ひび割れがある。
(はい いいえ)
- ⑤サイディングの目地に隙間がある。
(はい いいえ)
- ⑥一階に店舗・車庫・大きな部屋がある。
(はい いいえ)
- ⑦壁が少ないか、一方に偏っている。
(はい いいえ)

- ⑧増改築をしている。
(はい いいえ)
- ⑨昭和56年以前に建てている。
(はい いいえ)
- ⑩完了検査を受けていない。
(はい いいえ)

■以上の結果、「はい」の数によって
診断します。

「はい」3個未満

問題ありません

「はい」3～7個未満

専門家の耐震診断が必要です

「はい」8個以上

専門家の精密調査と補強対策を
考える必要があります

負傷者の3/4は、家具の転倒が原因

阪神・淡路大震災では、6400人を超える死者の約8割が、家屋や家具の下敷きになる「圧死」でした。全半壊を免れた家屋でも約6割の部屋で家具が転倒したり、散乱したといいます。転倒率は本棚が5割、たんす類が3割、テレビは2割が飛んだといいます。割れたガラスや食器類によるけがを含めると、住宅内部でけがをした負傷者の3/4は、家具類が原因だったというデータがあります。直接、打撃を受けなくても、倒れた家具やドアなどが逃げ道をふさぎ、火災からの非難が遅れた例も報告されています。

■家具の固定

L字金具、木ネジ、ヒートン、針金などで家具と柱（間柱）を固定します。固定できないときは、できるだけ板の間に置きま

す。畳に置くときはベニヤなどを下に敷き、すべり止めをつけ、つっぱり棒を設置します。窓やガラスを背に置かないこと、重いものを下に置き、家具自体の重心を低くする配慮をします。家具の固定は、落下物から身を守る副次的効果が期待できます。

■次善の策を考える

借家なので柱に傷をつけられない。高齢者世帯なので、家具の固定も移動もできない。そんなときは、布団の敷き方を変えることで、少なくとも寝ているときに頭を直撃されないように工夫します。

また、壁の少ない一階に寝ている人は、二階に寝室を移すことも安全対策のひとつです。全半壊の家屋のほとんどが、一階がペしゃんこに潰れていても、二階の多くは形をとどめています。